

活動実績 及び 近況報告

< 令和8年度 > ～ Purple Lightning ～

☆ インターハイ都予選 < 53期生 最後の大会 >

第1回戦 ○ 保谷高校 85 vs 45 府中工科高校 ●

第2回戦 ○ 保谷高校 90 vs 38 東久留米総合高校 ●

第3回戦 ● 保谷高校 59 vs 91 広尾学園 ○

1回戦、2回戦ともに、ベンチ入りした選手全員が出場し、快勝することができました。引退に向けて練習を重ねてきた3年生が活躍する姿は、応援に来てくださった保護者の皆様、先生方、友人たちにも大きな感動を与えてくれたことと思います。3回戦では、序盤からなかなか自分たちの力を発揮できず、相手のエースに高確率でシュートを決められ、苦しい展開となりました。その中でも、強いディフェンスからプレッシャーをかけ、10点差以内まで迫る場面もありましたが、最後は力及ばず敗退となりました。悔しい敗戦ではありましたが、ここまで部活動を続け、保谷高校男子バスケットボール部を支えてきてくれた3年生には、心から感謝したいと思います。保谷高校の伝統は、彼らから1・2年生へと確かに引き継がれていきます。

最後になりますが、多くの保護者の皆様、OB、友人、先生方に応援に駆けつけていただき、選手・スタッフ一同、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。新チームも、少しずつ上を目指して努力を重ねてまいりますので、引き続き応援のほどよろしくお願いいたします。



< 令和7年度 > ～ Purple Lightning ～

☆ U18 <<公式戦>> 4勝1敗 リーグ2位

第5戦	保谷高校 ○ 73 vs 65 ● 創価高校
第4戦	保谷高校 ● 70 vs 81 ○ 東京高校
第3戦	保谷高校 ○ 99 vs 66 ● 足立西高校
第2戦	保谷高校 ○ 116 vs 70 ● 目黒学院高校
第1戦	保谷高校 ○ 86 vs 68 ● 鷺宮高校

【第1戦 vs 鷺宮】新チーム初の公式戦。ベンチに入れなかった選手も含めて、27人で戦う保谷高校。夏の合宿や練習、練習試合などの成果を試す公式戦となった。序盤、自分たちのペースにならず、イージーなミスがでたり、シュートがなかなか決まらなかったり、メンバーを変えながら前半は展開していった。終始ゲームは保谷ペースで進んでいったが、なかなか満足いくプレーができなかった。後半は、足をとにかく動かし、DFと速攻で点数を重ねた。15人の選手が出場して、約20点差をつけて完勝することができた。まずは、勝利をつかんだことで、自分たちの自信となった。

【第2戦 vs 足立西 / 第3戦 vs 目黒学院】ベンチ入りした18人全員出場し、勝利を掴んだ2戦。awayの中でも保護者の方の応援もあり、選手は自分たちのやってきたDFで相手を苦しめて、ターンオーバーを多くとることができた。課題であった「点をとる」においても100点ゲームができた2戦であった。フリースローの確率をあげて、3Pをとにかく自信をもって打つ。そのためには、自信をもって打てるだけの練習を重ねる。1戦1戦成長を感じられている選手もいる。全員が笑顔でバスケットボールを楽しめたことが一番だった。特に1年生の活躍が光った。



【第4戦 vs 東京】事実上のこのリーグでの決勝戦となった。かみ合わないプレーが多く出たり、緊張からイージーシュートのミスなど多くみられ、終始、相手のペースでゲームが進んでいき、最後まで保谷高校のプレーできず、悔しい負けとなった。また、できたところとできなかったところをチームで話し合っ、保谷高校としてやりたいバスケットボールを見つけて、冬→春に向けて1つの形を構築していく！

【第5戦 vs 創価】このゲームは、普段ゲームになかなか出られない選手を中心に、戦った。全員バスケットを目指して、心からバスケットボールを楽しむことができた。朝練、夕方練など休むことなく、頑張っている選手の活躍で勝利を収めることができた。全員がコートに立ち、いい顔でバスケットボールができたことが一番の収穫となった。



☆ 武蔵野カップ2025 <カップ戦> [8月30日 / 8月31日]

- 保谷高校 ● vs ○ 大成高校
保谷高校 △ vs △ 武蔵野北高校
保谷高校 △ vs △ 小金井北高校
保谷高校 ○ vs ● 明治大学附属明治高等学校
保谷高校 ○ vs ● 多摩科学技術高校
保谷高校 ● vs ○ 法政大学高校

27人全員が出場するカップ戦。とにかく、それぞれが課題としていることに向き合う大会となった。引き分けで終わるゲームや1点差ゲームで勝利したゲームなどしびれる展開もあったが、チームの集中力が続かなかったり、疲れが出たりしてうまくいかない時間帯もあった。最終的には、たくさん出場している学校の中で4位という結果に終わったが、選手誰一人満足をしていないという表情だった。まだまだやれるという気持ちを強く持って、次の大会に挑む。

- < 令和7年度 > [インターハイ予選] 第3回戦進出
< 令和6年度 > [関東大会予選・インターハイ予選] 第3回戦進出
< 令和5年度 > [新人大会] 第3回戦進出
< 令和4年度 > [関東大会予選] 第4回戦途中棄権
< 令和3年度 > [インターハイ予選] 第4回戦 ベスト64

